

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和6年度 第3回 加東市社会教育委員の会議兼公民館運営 審議会
開催日時	令和7年3月27日(木) 10時00分から11時30分まで
開催場所	加東市社公民館 2階 視聴覚教室
議長の氏名 (安原 一樹) 出席及び欠席委員の氏名 ○出席 ・安原 一樹委員長 ・神戸 滋和副委員長 ・荒木 勉委員 ・藤尾 桂子委員 ・竹内 守男委員 ・近澤 玉幸委員 ・石田 れい子委員 ・土肥 昭彦委員 ○欠席 ・柿本 美穂委員 ・堂下 哲子委員 ・後藤 浩美委員	
説明のため出席した者の職氏名 ・人権協働課 課長 小坂 淳子 ・中央図書館 館長 田中 美紀子 ・生涯学習課 課長 岸本 孝司 ・ 同 滝野公民館 館長 松本 美香 ・ 同 東条公民館 館長 竹内 喜博	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 ・生涯学習課 主査 岸本 善仁	

議題、会議結果、会議の経過及び資料名

開会

1 あいさつ 安原委員長

2 協議事項

(1) グループ協議

テーマ「令和6年度生涯学習事業の取組内容及び評価について」

・生涯学習課 ・人権協働課 ・中央図書館

○資料に基づき説明

(2) 全体交流（各グループから）

○資料に基づき説明後、質疑応答

【質疑】

(生涯学習課)

委員長：グループ協議について、令和6年度の生涯学習事業の取組および内容評価について事務局から説明をお願いします。

事務局：青少年健全育成事業、茶道教室で最後の「ありがとうお茶会」を実施させていただいて36名の参加。生花の方も最後の2回ということで、生花協会と一緒に展示をしたことで事業を終えた。その後に兵庫教育大学の連携事業を実施。全体としては13の事業をやって28回延べ381人の参加があった。続いて地域子ども教室も事業を2月末で終えた。指導員が77名、延べ参加児童数は6815人だった。あったか加東伝の助かるた大会は、1月5日に実施。98名の参加。前年より参加者は少なくなっている。ノーベル大賞作品を10月に実施。49点の応募があって展示。来場者が264名となっている。続いて、地域学校協働本部事業では、令和6年度、「東条のまつり行事一覧」を地域学校協働活動推進員が中心になって作成し、東条学園の児童生徒と地域の方に配布した。成人式事業では、1月12日に開催。338人の参加があった。実際に案内通知を発送させていただいたのが403名で84%ぐらいの参加であった。特に大きな混乱もなく良い式典ができた。成人学習事業では、高齢者大学成人学習講座とそれぞれの団体への補助を実施。特に成人学習事業は、成人学習講座でいろいろな意見をいただいて、「幸せを作る料理教室」は誰でも簡単にできることをコンセプトに実施し、延べ人数54名の参加があった。茶道教室も34人の参加があった。芸術・文化活動の振興に関する事業では、公募美術展では、昨年より作品数は増えている。今年度は380点。前年度は376点だった。来場者の方も1672名で昨年より増ということになった。ギャラリー活用事業については、榎倉先生の作品展と書道研究「和心会」の50周年の記念で開催し、来場者は225名だった。生涯スポーツの普及振興に関する事業では、加東伝の助マラソン大会1月19日参加者数1061名。申込者数は1206人でコロナ前にはまだ回復していないが、だんだん参加者が増えている状況。生涯スポーツの振興のための基盤作りで、ALL加東スポーツDAYの開催を2月16日60名の参加。わくわくウォーキングでは、小学生チャレンジスクールとの合同開催で、若干人数は増え、168名の参加があった。各施設の維持管理については、予定していた工事は全て完了した。最後に生涯学習事業についての総括を成果としてあげている。成人学習の料理教室のように、いろいろとご意見いただいた部分を反映したり市の特産物、もち麦やアピールポイントのゴルフを関連関係課と連携してチャレンジ教室を取り入れたり、伝の助マラソンでは最高齢者

チャレンジ賞を創設したりするなど新たなことにも取り組めた１年であった。公募美術展や伝の助マラソンでは前年度の参加者を上回り徐々にコロナ禍前の様子に戻ってきているように感じる。参加者からのアンケートでは、次回を楽しみにして楽しいんでくださっている様子や次はこういうことに参加してみたいという内容が聞き取れ、講師先生とのマッチングにもよるが、可能な限り実現していきたいと考えている。課題としては、事業のPR不足。特にSNSの活用をしていく必要がある。また、チャレンジ教室では昆虫採集をしてみたいと書いている児童があり、これまであまりしてこなかったような分野のニーズがあることにも気づかされた。講師の確保において実現が難しい内容のものもあるが、まずは、児童から高齢者までさらに生きがいや子どもたちの夢に繋がっていくような充実した生涯学習事業の実施を心がけていきたい。

委員長：ありがとうございます。意見交換は後ほどいたしますので質問だけ受けたいと思う。質問はあるか。

委員：滝野・東条公民館にあまり行かないので、わからないことも多い。滝野・東条の現状と課題を簡単にお願いしたい。

事務局：茶道教室を東条公民館で行っている。伝統行事なので、異年齢の子どもたち、違う学校の子どもたちが８回程度の中で皆仲良くなって、年上の子は年下の子を面倒を見て、年下の子は年上の子を慕って仲良くやれている成果が出ている。子どもの祭りがあり、春祭り・夏祭り・冬祭り・東条地域挙げてのミニ文化祭がある。そこでは多くの方が参加をし、和気あいあいとコミュニケーションを図りながらできている。これからの課題としては、もう少し中間世代の方を取り込んでいって、もっと多くの方と東条地域を活性化、コミュニケーションができる公民館を位置づけるようにやっていけたらなと思っている。

事務局：滝野公民館は現在では、地域の拠点となっており、サークル同士のコミュニケーションの場としても活用されている。今サークルが１８団体あり、ほぼ毎日活用していただいている状況で、活発に活動ができていると思う。課題としては、子どもから高齢者までいろんなサークルがあるが、だんだん高齢化しているサークルもあり、新規会員がなかなかいないという悩みを持っているサークルも多くなってきたので、その辺が課題である。

委員：評価については、資料として参加者数を上げておられる。学習者が何を狙いにして、「こういうふうにした」とか、「楽しかった」とか、そのところが評価ではないか。学習した人の成果については、どこにも出てこない。社会教育は価値観を自分で形成する。学校教育は前提が全員。社会教育は個人の自由。何人いても参加者は同じ子ばかりが対象になってる可能性がある。加東市の子どもが何人おって、何人ほどがどんな事業に参加をして、どんな感想を持って、新たにどんな希望を持っているか。これを知ることが、生涯学習者の大前提。今のままの状態でしたら、どれかを割愛しろと言われても、どれを割愛していいかわからない。新たにどんな事業をやるかもわからない。どの程度、どんな事業に参加しているのか。ちょっと調べてもらえないだろうか。何にも参加をしなくても、社会教育とは言わずに、生活体験の中で、自分で学習しとる。だから、加東市は一番にその社会教育の教科書みたいなものを作ろうとして始めた。作った段階が完成じゃなくて、計画に沿って事業をやって、元が悪ければ直していって、加東市が先頭に立って、社会教育を実践してもらいたい。

委員長：ご指摘いただいたのは、社会教育をずっとやってきた私の立場からすると、ある種の課題の一つでもあって、学会の社会教育学会の中では昭和３０年代からずっと議論を繰り返して繰り返してやってきたのは事実。個人の学習の達成度評価をある程度できるけども行政としてどう評価するか。まだまだちょっと研究開発の余地があるので、私自身も一つの宿題として収めておきたいと思う。他ございますか。なければ、次人権協働課お願いします。

課 長：人権教育 1 の人権教育事業の地域に学ぶ体験学習支援事業のうち、小学生人権教室を 12 月 8 日、21 日、24 日と実施。障害者スポーツ体験としてシッティングバレーを、それから多分交流体験として「ベトナムについて知る」講話とベトナム料理の体験、それから民族衣装のアオザイを試着するという体験をした。それから部落問題学習と平和学習として革細工体験と工場見学それから平和資料館の見学を行った。参加者数や満足度は資料に記載している通り。小学生の対象の事業ということもあって保護者の方も一緒に参加していただいて子供と一緒に同じ体験をするといういい機会にもなったかと思う。保護者の方からこんな参加が多かったのは初めてじゃないかなと思うが、保護者の方からも大変満足していただき、事業をこれからも続けてほしいというご意見をいただいた。工夫した点については、参加者募集にあたって各学校に出向いて事業の趣旨などを説明して参加を呼びかけた他、保護者さんの連絡用アプリを活用させていただいて広く呼びかけをしたことで、例年よりも多い参加者を得ることができた。人権を考える市民の集いは、前回の会議でもご意見いただいて去年はとても参加者が少なかったが、去年 108 人の参加よりも増えて 159 人の方に参加いただけた。アンケート結果としては、満足度が高いものになったと思っております。91.5%の方が大変満足、やや満足と回答いただいた。アンケートの記述から、今後の行動に繋がるようなご意見もたくさんいただいたので、今後も工夫して続けていきたい。第 18 期加東市民人権講座は、第 3 回を 11 月にケーブルテレビと YouTube での放送配信で性の多様性をテーマとしたものを実施。講演をオンラインで実施するのは講演時間が制限されるので、内容が深まりにくいということもあり、あとケーブルテレビも視聴者数がカウントできないのでそこが難点だったが、受講される方が自分の都合に合わせて受講できるので助かるという好評だった。また、性の多様性の関心も高まったというアンケート結果となった。時間が短いのも入門的な話で、理解しやすかったというようなご意見もあったので会場に人を集める講演会、それからオンラインで行う講演会は、一長一短ありますけれども今後も工夫しながら続けていきたい。人権啓発情報誌「夢きらめいて」の発行は、3 月 1 日に広報課等と一緒に第 18 号を配布した。部数は 1 万 4600 部で、広報かとうと一緒に全戸配布したり、他市内の病院や薬局などの待合に置いていただくように郵送したりしている。特集記事はインターネットと部落差別というもの、それから中学生人権作文などを載せているので、またご覧ください。今回は「夢きらめいて」についても成果を図るため、冊子の中に 2 次元コードをつけて、アンケートを送ったが、ほとんど回答がいただけてない。3 月 1 日に配布して、現在でもまだ 1 件しか回答がない状況になっている。今後も何かの機会を捉えてアンケートをとっていききたいと思っている。広域隣保活動事業では、地域福祉事業で、ヨガ講座を 2 月に行った。2 月 3 日は 8 人。2 月 19 日は 7 人。2 月 25 日は 11 人。2 月 28 日には 13 人の方に参加いただいて交流しながら健康作りをするという事業で、参加していただいた方には好評をいただいた。男女共同参画事業では、第 4 次男女共同参画プランに基づいていろんな事業実施している。第 4 次プランでは、男性の育児や家事への参画を重点課題にしている、男性対象の講座のセミナーを行おうと、1 月 26 日に大阪教育大学の小崎恭弘さんを講師にお迎えして、子育て応援ワークショップを行った。もっとたくさんの方に参加いただけたらよかったが、参加者が少なくとても残念であった。広報もかなり頑張ったつもりだったが、アンケート結果を見ても良かったが、なかなか参加いただけなかった。また今後も広報など頑張っていきたいと思っている。Facebook などにも掲載したり、こども園にチラシを配布したりもしたが、やっぱり男性に来ていただくのは難しいなと思った。3 月 9 日に女性のための就労支援セミナーとして、税制とか社会保障制度について働きたい今後の働き方や人生設計を考えるためのお金の話をした。11 人程度だったかと思うが、定員 12 名のところ、申し込みが 11

人あり、当日の体調不良で欠席した方もあったが、内容としては良い内容で満足度も高いものとなった。12月7日に行った北播磨管内女性リーダー交流会は、参加者数が42人で、中貝宗治さんのワークショップで充実した内容で実施することができた。大変満足度も高かったが、アンケート回答者数が少なく残念だった。皆さん、事業が終わった後にそれぞれが意見交換されたり、名刺交換されたりとなかなかアンケートに気が回らなくて帰ってしまわれたため回答が少なかったというふうな結果だった。その他として、加東市人権同和教育研究協議会事業だが、住民学習団体で研修を行っているが住民学習、96地区で人権学習に取り組んでいただいた。コロナ禍では、かなり実施が落ち込んだが、学習方法やワークシートを事務局で作って活用をしていただいくなどの工夫を凝らしたことで、94地区にご利用いただいて実施していただいた。コロナ前の状況にやっと戻ったかなというところだが、今後も今いろんな学習方法を提供して、引き続き各地区で人権学習に取り組んでいただける環境作りをしていきたい。その他各種団体でも人権学習していただいたり学校教育でも、学校の方でも学校教育部会で公開事業や公開教育をしていただいたりしている。加東市企業人権教育協議会の事業の研修の最終の参加者数33人。1年を通して人権教育啓発事業についての成果と課題としては、関係機関と連携して、あらゆる年代を対象に人権教育啓発事業に取り組んだ。台風の接近で中止した1事業を除いて全ての計画を実施計画通りに実施できて、参加者数はおおむね前年度と同程度もしくはそれよりも、増えたものもあったので良かったかなと思う。また、地区住民学習の実施地区数が先ほど申し上げた通り、コロナ前の状況に戻った。いろんな事業を予定通り順調に実施できましたのは広報などを工夫した他、講演会や学習教材を映像配信したりそれから啓発資料やワークシートを人権協働課の方で作成して相談に乗ったり地域人権学習に取り組みやすい環境作りに努めた成果だと思っている。各事業のアンケート結果は、参加者の満足度は高く事業参加後の行動変容に繋がっていることもうかがえるものであった。引き続き事業に取り組んでまいりたいと考えている。課題としては、各種事業の参加者数はおおむね維持できているものの参加者の固定化や若年層の参加が増加しないこと。より多くの市民に啓発ができていくように、アンケート結果を踏まえて効果的な教育啓発手法を検討し、今後の事業を企画していきたい。また、SNSで若い人対象の啓発はInstagramを使っていきたいと思っているので、また今後、企画にいかしていきたい。

委員長：ご質問ございますか。

委員：台風で中止した「インターネットと人権」の講演会は、次年度に計画しないのか。

事務局：令和7年度の8月最終の土曜日に行う予定である。

委員：わかりました。ありがとうございます。

委員長：他はございますか。

委員：いろいろお話を聞いて、アンケートの数字が結構生きていたり生きてなかったりするけれども先ほどの話で、北播磨管内女性リーダー交流会のときにちょっとアンケート取る時間がないって聞いたが、それはちょっと変だと思う。やっぱりそういうアンケートを取る時間をきちんと設定するべきだと思う。満足、やや満足だけを挙げていただいても、私個人的には本当かなっていう、疑問がある。こういう数字で載せるなら不満な人の声も何%あったからってやっぱり載せるべきがアンケートだと思うんです。いいことばかりのアンケートの数字は個人的にはあまり望みません。アンケートのとり方の視点を考えていただいたら、参加者も増えてくるんじゃないかな。

課長：ご意見ありがとうございました。アンケートの内容を踏まえ載せるかどうか等もまた生涯学習課とも調整して、今後の課題とする。当然ここには満足と大変満足としか載せてないが、当然事務局の方では、なぜ不満だったのか不満と思われた方は自由記述に書いてくださっているの、その自由記述は大切にしようねとい

うことを私ども事務局みんなに伝えている。その自由記述によって講演時間を夜にしてみようとか、夫婦で時間をずらしてみようとか、いろんな方の声を聞いて試行的に変えていってるところもあるので、いろんな意見があり、すべてに答えることはできないが、どのようにしていったらたくさんの人に参加いただけてより満足の高いものになるのかということは、そういったアンケートを参考にさせていただいているので、また今後とも、事業に参加いただいたときには、アンケートにご協力いただきたい。

委員長：引き続き図書館の方をお願いします。

館長：加東市立図書館の事業概要を2月末現在の数字で説明。図書館運営事業の中で、図書館協議会の開催。第2回の図書館協議会は委員6名出席いただき、ご意見を多数いただいた。市内の小学校と中学校に本を届けるお届け図書館を実施し、2月末で小学校8回の配布が終わっている。滝野中学校へも3回配布が終わった。次に北播磨広域定住自立圏の数字ですが、前回とは変わっているのを挙げている。こちらは昨年度に比べたら若干増えているという状況だが、コロナ前までは戻っていないという状況。次に職員の研修会等の参加についても、前回より後の部分が赤字になっている。いろいろ各館の職員に呼びかけて、いろんなところに参加してもらうよう務めている。14ページの図書館充実事業では、図書館システムの維持管理や図書館アプリの活用などで規定によるが、予約サービスについては、去年に比べて、かなり増えて1000件ぐらい増えている。まだ3月なので、増えると思う。これに関して、Webインターネットの検索画面に本の書影が出るように改修したので、それで予約の数字は伸びている。図書の収集については、リクエスト図書など図書館利用の利用傾向に応じた資料の収集や購入ができています。新たに、劣化した郷土資料の修繕を行い、まだできていないが、いずれ電子図書の図書館というのを目指しているの、そのために電子データというのを作成を進めている。それと、マイナンバーカードの対応端末というのを導入して、こちらが完了している。2月末現在で275名が利用登録をして図書館カードとしてマイナンバーカードを使えるということに登録していただいている。図書館主催事業で、小学生の図書館体験として、お出かけ図書館というのを実施しているが、今年度については、3年生のいる学校はほぼ参加していただき、2月末時点で280人の3年生、10名の2年生が利用している。それと各館で職員やボランティアによるおはなし会を開催している。こちらの数字については、コロナ前よりはまだまだ少ない状態が続いている。次に読書活動推進事業、読みカツとしてやっている行事は2月末現在で、この数字の参加人数になっている。こちらについては、新たな事業の企画を考えて行っているの、結構人数は増えてきている。次に健康課と連携して、昨年度までは初めて出会う絵本というのをしていたが、それに絵本のプレゼントをつけ加えて、ブックスタート事業ということで、今年度の8月から実施している。子どもさんを持つ保護者の方から大変喜ばれている。各館の施設維持管理事業については、現時点で全ての工事が終了している。成果として、リクエスト投票など、図書館利用の傾向に応じた資料の購入収集ができています。また、ホームページでの情報発信にLINE連携というのを加え、迅速に情報提供ができています。ウェブ上で検索したときに、図書の写真が出るようにしたことで、利用者が求めるものをイメージしやすくなったということもあって、それからの予約件数が増加している。お出かけ図書館ですが、ほとんどの小学校が参加してくれた。小学校3年生に自分自身の図書館カードで本を借りる体験をしてもらい、図書館への関心を高め、利用の促進に繋がると感じている。読書活動推進事業としても初めて行う行事や、既存の行事を工夫して立案、実施できている。ブックスタート事業は8月から4ヶ月児対象に実施している。多くの保護者から喜ばれている。施設利用としては、防災課に協力して、夏の時期には中央図書館と滝野図書館で、館内に熱中症対策のスペース、「クーリングシェ

ルター」を設けて、利用者に安心安全な空間を提供している。学校には、お届け図書館というのに加えて、学級単位で団体貸し出しを実施。1学期1クラス50冊の貸し出しをして、先生や子どもたちの要望に応えることで、児童の読書活動にも貢献できたと考えている。あと、図書館利用が困難な利用者に対して丁寧に1人1人の要望をお尋ねして図書の宅配サービスというのを実施することで、利用者に喜ばれている。課題としては、今後も継続して利用者の要求に応えるリクエスト図書や医療現場に合わせた図書館資料の充実によって、魅力ある蔵書作りに努めていきたい。あと小中一貫校になることで小学校の数が減るので、お届け図書館の実施について工夫が必要になると考えている。それから図書館利用困難者に対して、さらにPRに努めて、補助の宅配サービスを充実させていくように実施していきたい。

委員長：ご質問ございますか。

委員：先ほども委員が言われたんですけれども、子どもと高齢者で利用者は何人ぐらいいるんでしょうか？また、アバウトでいいんですけれども、利用登録者で、図書館カード利用者と、マイナンバーカード利用者とダブっている人数は。正確じゃなくていいので、割合とかわかれば教えて欲しい。

館長：カードは、市民は6割ぐらいだと思います。ただ図書館は、定住自立圏の関係で、北播磨全域（加東、加西、西脇、多可）で借りられたものだったとか、東播磨地区でしたら誰でもカードが作れたりするので、はっきりとはわからない。

委員：それとこれも資料でも事例にも出たんですけど、健康活動が今の人権協働かどうか今防災課と言われたんですけど、横の繋がりができることはいいことだと思うしこれはいいことだと私は思います。

委員長：他ございますか。今グループにわかれているので、今ご報告いただいたことについて、それぞれのグループで協議をしていただきます。

（グループ協議）

A 班：業界事業学級事業に強化をそれについては前提をはっきりさせておかないと。その学校教育と社会教育と対比されるんで、学校教育は国が責任を持って、何を教えるかまで明確にして、しかし社会教育は、教育基本法、学校教育法、社会教育法で、社会教育事業のお話は止まっております。学校教育の方は指導要領から教科書があって、中身が非常に具体的になっている。社会教育事業の方は、社会教育法で止まって、そこからは具体的な委員長は社会教育の内容はどういうふうにしたらいいか。議論をしたこともあるっておっしゃったんですけど、社会教育事業の中で何を教えるか、これは、やっちゃいかんことです。だから、社会教育のプログラムの中で、何を学習するかは、学習者自身が考えることで、学校教育は人間作りをする一方で、それをベースにして、人作りを個人個人で社会教育事業を使ってやるんですよという、そういうことをまず前提で考えられる。いかがでしょう。その前提にもう一つ加えて、評価をするのは自分自身なんで他の者がその教育事業に参加をした人たちについて評価をするのはこれも厳禁それをまず大前提で、生涯学習事業の評価を考えないといけないんじゃないかと。ですから、学校に具体的に教える内容を用意してませんので、ただ、「用意したのは、こんなことをしよう。って募集したら、参加しやすいやろうな、こんなことしようかで用意したら参加しやすいやろうな。その中で、自分で何をどういうふうにするかは決めてな。」当然決めたんだったら、指導者は立ち話で何をしたいの。どういうふうにしたいの。何をしたら楽しい、何が嫌なの、そういう対応を繰り返して、最後、その指導者が、大まかに取りまとめて、この事業での学習者はこんなことでしたよ。生涯学習課の事務局に提出をする。ですから、生涯学習課あるいは人権、その事務局のところで評価をしようかいうのは、そもそも無理なんで。実際にその事業で、窓口のところの人が大まかに掴んで、それを事務局に届けばいい。それを事務局でまとめた、こんな形で評価を作り上げたらっていうのが中心

の話題になりました。具体性はありません。

B 班：こちらのグループのそれぞれ考えられていること、感じられてることをお話をしていただいた。生涯学習に関する事業について、それぞれ目的とか狙いを持って多くの事業・種目で行われているので、それは大変良いことであると同じ人が何回も参加する。別に気にかけることとかではないだろう。参加した方が他の人にこの事業良かったよということで、広げて次回の参加に繋げていく。大事ではないか。アンケートは事業ごとに良く捉えていて次に生かす。23～40 代くらい大人の若い年代の参加についてはやっぱり少ないのが現実。一つの例として、東条地域で東条学園が小中一貫校で、昔の PTA と地域の C を入れて PTCA という組織を入れて活動をしているが、そういう場も子どもを育てる年代が集まってきていますので、その辺をどうしたらいいかと話し合ってもらうのも一つの方法ではないか。子どもたちの活動の場、意見とか、方法を考え出すということ。加東市の図書館いろんな事業をしたり、いろんな研修会に参加されたりしていますので、加東市の図書館の良さ、他の市町と比べて、広報などを使って発信してもらったらなという意見が出た。

委員長：ありがとうございました。ご指摘いただいた部分は、一晩中議論できるが、時間がないので、これで終了する。事務局の方から連絡事項をお願いします。

（事務局、事務連絡）

神戸副委員長：閉会挨拶

令和 7 年 3 月 2 7 日